

WRC第13戦ラリーオーストラリア「三菱ランサーディーラーチーム」

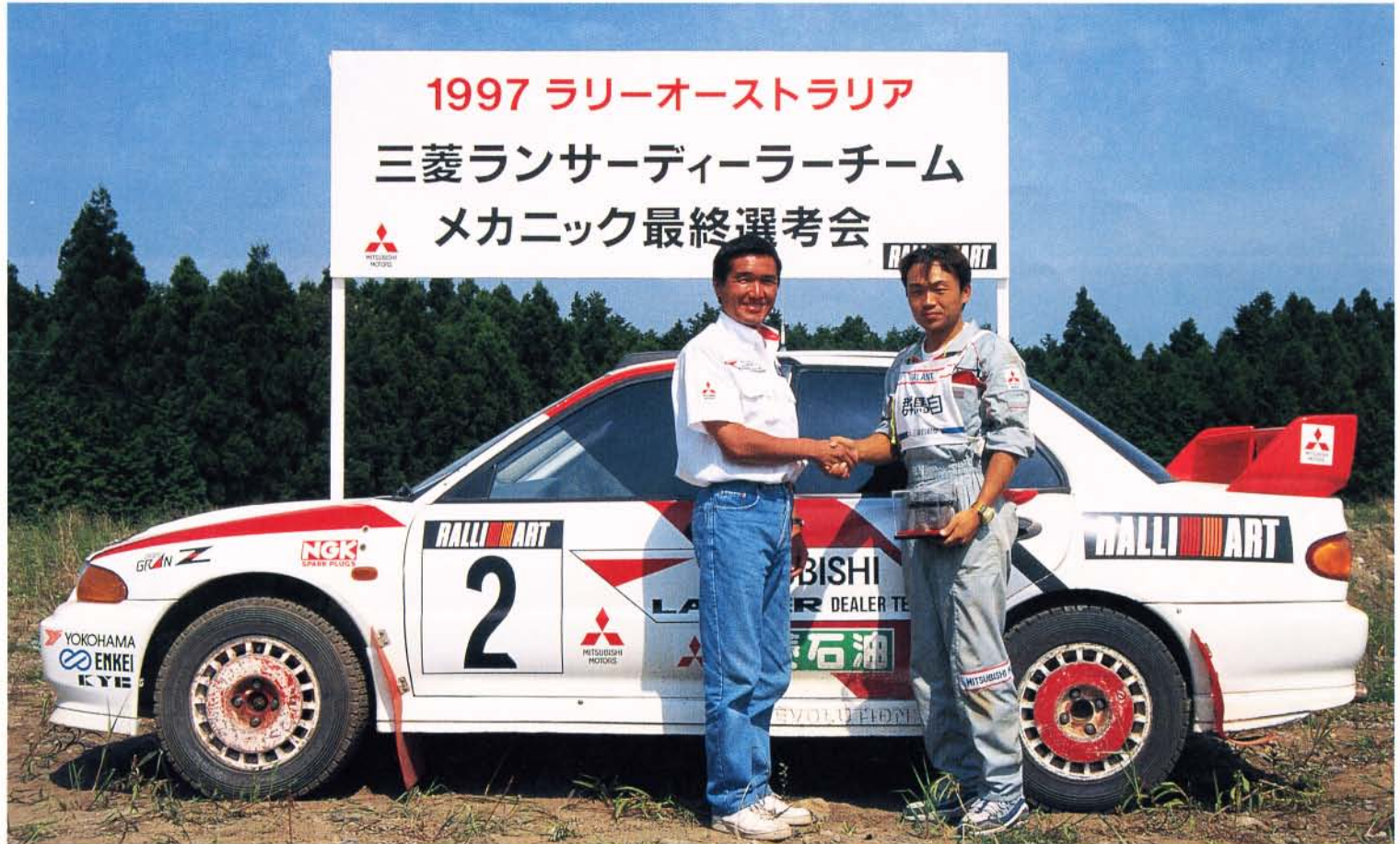
CMSC群馬
群馬三菱社員

山口利久氏、派遣メカニックに決定。

1997 ラリーオーストラリア

三菱ランサーディーラーチーム

メカニック最終選考会



メカニックに選考され、篠塚選手と感激の握手をする山口氏と選考会の模様。

三菱自動車販売協会/ラリーアートでは、10月30日～11月2日開催'97WRC第13戦「ラリーオーストラリア」に篠塚建次郎選手をドライバーとして参戦する「三菱ランサーディーラーチーム」の現地派遣メカニック5名を、このほど決定しました。「三菱ランサーディーラーチーム」は全国128社の三菱自動車ギャラン系販売会社の支援を受けて参戦するもので、メカニックの派遣は販売会社サービススタッフの技術向上と志気高揚を目的として、本年度5回目となります。8月18～20日、静岡県御殿場市の特設会場で篠塚選手を審査員に迎えて、約8,100名から選抜された23名が参加して選考会が行われました。

審査初日は指定コースを時間内に走りきるナビゲーションランニングと車両説明、夜には面接。2日目は体力審査に続きメカニカル審査。サファリラリーに出場したランサーEVグループA仕様車両を使って、5分以内のトラブル箇所のチェックや英語による指示を受けての作業といった本番さながらの審査に、緊張感が高まります。午後からはサービスクーの運転技術を審査するドライビング審査が行われました。最終日にはグループで行う総合審

査。審査会場をサービスポイントに見立てて行われる一連の作業の中で、個人のリーダーシップや作業の確実性、機敏性が採点されました。

そして今回、CMSC群馬の山口利久氏(群馬三菱社員)が見事、厳しい審査を突破し選考されました。「ひとつひとつの行動を落ち着いて確実にこなしていき、チームが優勝出来るよう、皆と力を合わせ頑張ってます」と力強いコメント。CMSCからはこれまでも、'93年に大阪・杉本達也氏(近畿三菱社員)、島根・岡本春生氏(島根三菱社員)、'94年に群馬・飯塚恒守氏(群馬三菱社員)、'96年に栃木・下谷光俊氏(栃木三菱社員)、広島・中根孝氏(中国三菱社員)が選ばれ活躍しました。



8月23日(土) エビスサーキット(福島県二本松市)

白熱のイベント。'97CMSC全国大会開催。



8月23日(土)に'97CMSC全国大会が開催されました。

場所は、おなじみの福島県二本松市にある東北サファリパーク・エビスサーキット。大会には、全国の支部から、本部を含め180人の参加者が集まりました。当日は、遠くの山並もはっきりと見渡せる完璧な快晴。9時の受付、車検を終えてからは、本番のジムカーナへ向けての入念な慣熟歩行です。ここでの丹念さが本番にもつながります。そして、いよいよ開会式。外川会長から開会のごあいさつをいただいて、ドライバーズミーティングに移りました。今回の目玉はオフィシャルのCMSC福島の方々に用意していただいた、スタートランプ。説明の後のテスト点灯には、アンコールがでるほどの好評でした。

そして、ジムカーナ大会が始まりました。クラスは、AII、AIII、AIV、レディース、オープンの5クラスで、参加台数は70台。まずスタートを切ったのは、AIIクラスの大阪・若山選手。勢いよく飛び出していきました。実況アナウンスの島根・古藤さんの声も、続々とスター

トをする各車の走りっぷりにのせられて、ヒートアップしていきます。第1ヒートは午後1時に終了し、昼食をはさんで第2ヒートが始まります。

第1ヒートの結果も即座に張り出されているので、トップタイムを狙って皆さん力が入ります。勢いが良すぎて、たまにバックギアを使わなければならない人がいたり、ゴール入線後にタイヤをはね飛ばしたりするハプニングもありましたが、3時過ぎには対抗戦も無事終了。会場をサファリホテルの体育館に移しての各部門の表彰式では、気になる最終結果が発表されました。支部対抗は常勝、福島が敗れ、青森が栄冠を獲得。本部の坂さんから順位、タイム、名前が発表されるごとに歓声があがり、入賞者のインタビューは笑い声と拍手でつつまれました。入賞して賞品を手にした人も、そうでない人も満足のいく対抗戦だったのでないでしょうか。その後、CMSC各支部相互のコミュニケーションを図る為、また、本部ラリーアートへの要望、クラブの現状等の発表の場として、幹部会議が実施され

ました。

昼の部も終了すると、いよいよ本番?! 懇親会の始まりです。岐阜三菱・川島さんの乾杯の音頭とともにスタートを切りました。それにしても皆さんの獲物へのダッシュのスゴイこと。そして恒例のビンゴ大会でも、激しい戦いが繰り広げられましたが、ここでは子どもたちに主役の座は奪われていました。お腹も一杯になり、ビンゴで盛り上がった後も、各支部間との交流に花を咲かせたり、支部内で盛り上がったりと夏の宴は続きます。本部・須賀さんの中締めで一応の区切りはつきましたが、懇親会はエンドレスのようでした。最後のグループのお開きは、日付が変わって午前1時過ぎ(!)だったようです。

盛りだくさんのイベントがつめこまれた全国大会。また皆さんと楽しい夏の日を過ごしたいものです。2年後にまたお会いしましょう。最後に、オフィシャルの労をとっていただいたCMSC福島のみなさん、本当にありがとうございました。



'97CMSC全国大会 参加支部紹介



帯広&道北



栃木



愛知



青森



群馬



大阪



岩手



埼玉



広島



山形



千葉



島根



仙台



浜松



香川



福島



'97CMSC全国大会クロースドジムカーナ結果

支部対抗 (各支部高得点2名のポイント合計)

1位	CMSC青森	35ポイント	8位	CMSC島根	16ポイント
2位	CMSC大阪	32ポイント	9位	CMSC愛知	14ポイント
3位	CMSC福島	27.5ポイント	10位	CMSC栃木	10ポイント
4位	CMSC仙台	23ポイント	11位	CMSC香川	8ポイント
5位	CMSC群馬	22ポイント	12位	CMSC埼玉	8ポイント
6位	CMSC千葉	20ポイント	13位	本部	7ポイント
7位	CMSC山形	18ポイント	14位	CMSC岩手	4ポイント
			15位	CMSC広島	1ポイント

支部対抗1~6位(左よりの表彰)



A-Ⅲクラス (出走10台)

1位	朝野 勝己	大阪	59"02
2位	後藤 庄悦	仙台	59"35
3位	高橋 朝幸	大阪	59"94



AⅢクラス1位朝野選手の走りと、1、2位(左よりの表彰)



A-Ⅱクラス (出走29台)

1位	久保田 明	青森	55"16
2位	外崎 裕樹	青森	56"68
3位	鈴木日出明	山形	58"19
4位	飯田 和夫	愛知	58"30
5位	佐々木幸人	仙台	58"38
6位	宮武 隆司	埼玉	59"48
7位	松本 芳幸	愛知	59"70
8位	佐藤 智明	山形	59"75



AⅡクラス1位久保田選手の走りと、1~6位(左よりの表彰)



LADYSクラス (出走6台)

1位	大井 こそゑ	群馬	56"33
2位	佐藤 幸子	福島	59"50
3位	山理 直美	群馬	64"11



LADYSクラス1位大井選手の走りと、1、2位(左よりの表彰)



A-Ⅳクラス (出走20台)

1位	渡辺 弘	福島	53"42
2位	平塚 忠博	千葉	53"87
3位	荒井 信介	群馬	54"36
4位	下谷 光俊	栃木	55"45
5位	岩田 恒廣	群馬	56"90
6位	国分 弥生	山形	57"27
7位	高野 聡	岩手	57"49
8位	薦谷 英晶	青森	57"94



AⅣクラス1位渡辺選手の走りと、1~6位(左よりの表彰)



OPENクラス (出走5台)

1位	小館 久	青森	49"78
2位	宇野 慶一	青森	50"37
3位	横川 紀仁	仙台	60"17



OPENクラス1位小館選手の走りと、1、2位(左よりの表彰)





当日、駆けつけた道北・鎌田卓麻選手(左)。



実況アナウンスの島根・古藤さん。



岐阜三菱・川島さん。



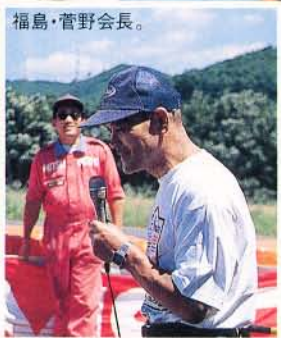
菅野審査委員。



本部 田口さん。



外川会長。 福島・菅野会長。



本部・須賀さん。



本部メンバー。



ご協賛いただいたスポンサー (50音順)

- IPF(株)
- (株)青木科学研究所
- (株)旭通信社
- (株)アライヘルメット
- (株)伊勢丹
- (株)エスエスリミテッド
- オーツタイヤ(株)
- カヤバ工業(株)
- (株)サミット
- 住友ゴム工業(株)
- (株)タスカエンジニアリング
- (株)テストアンドサービス
- (株)東京映像社
- 日本特殊陶業(株)
- 日本ミシュランタイヤ(株)
- (株)長谷川製作所
- (株)ブリヂストン
- ミツワモデル
- 横浜ゴム(株)
- (株)菱東エステック



楽しかった夏の全国大会。
また、お会いしましょう。

CMSC島根 古藤浩美

7
コトーの連続コーナー

ひと夏の体験

選手 荒井

97CMSC全国大会の
シムカーナ大会...
やほり目玉は、の方!

気心の「コトー」ラジエーター
タスカエンジニヤリング
リクを指導する、見事な
マシンの手前さん。

今日の救え

使えぬ車

作者
コトー

悪人の不奇をー!!

荒井さんごめん...!

ミラージュ・
カーブラザカップ第3戦

CMSC栃木 添田正選手 ポール・トゥ・ウィンで今季2勝目!

'97ミラージュ・カーブラザカップ・シリーズ、今季の中間点となる第3戦は、7月5・6日、筑波サーキットに33台が参加して開催されました。予選、決勝とも好天に恵まれ気温は40度近くまで上昇。非常に厳しいコンディションとなりました。この中、CMSC栃木の添田正選手が見事なポール・トゥ・ウィンで第1戦に続く今季2勝目を挙げました。

路面温度50度にも達しようかという猛暑の中で行われた予選では、各選手ともタイヤの消耗度を抑えようとやや控えめなアタック。その中、添田選手が1分5秒500のトップタイムで久しぶりのポールポジションを獲得。以下1秒以内に半数近い数の選手がひしめく結果で、激戦必至の決勝に注目が集まりました。

決勝当日も快晴、猛暑。「今年から実施されたタイヤ4本規制のため予選周回数1番少ない私が有利なので、スタートさえ失敗しなければ序盤から逃げる作戦でした。前に目標のいないスタートは少し緊張しましたがタイミング良くクラッチミート出来ました。4周目位で後ろがだいぶ離れたので、後は後続と



猛暑の中、快走の添田選手。

の差を確認しながら1分5秒後半から6秒前半で周回。途中、数回ブレーキロックさせたり等自分のミスもあり、特にラストラップの1ヘアで大きくタイムロスをして2位の選手にかなり詰め寄せられましたが何とかそのままゴール。このクラスでは初めてのベストラ

ップも記録出来ました。」と添田選手。独走で20周を終了し、今季2勝目。ポイントでも2位と11ポイントと差を広げ、初めてのシリーズチャンピオン獲得に向け、大きく前進しました。

CMSC仙台 高橋しげる ミラージュ・東北シリーズ第3、4戦優勝記

第2戦の雪辱を胸に、第3戦に備えて行った練習は、台風7号の影響で大雨の中。6月28日の予選も台風8号で大雨。私は「うれしくて」仕方ありませんでした。練習の成果が充分発揮できます。予想通りポールポジションをGET!「決勝でも雨が降れば最高のレースになる」と思い一人で喜んでいたら、当日は晴れてしまいました。

29日昼、スタート。うまくダッシュが決まり1コーナーまでに完全に前に出る事が出来ました。ミラー越しに後ろを見ると、2位争いのバトルをしています。その間に引き離そうと思い、タイヤの様子を探りながら走行しました。1周目、予定通り2位と約2秒近く差をつけたので、あとは後ろとの距離を見ながらペース配分を考えました。後半、タイヤに優しい走りをしていても、タイヤがつかうような2位との間が少しづつ離れていきます。2位に8秒、3位に30秒の差をつけ、無事フィニッシュする事が出来ました。体力的に

絶好調の走りで連勝! 今季3勝目!

も精神的にも、とても楽なレースでした。タイヤも温存し、ラップタイムも2周目からゴールまで全て7秒台でした。

8月2・3日にスポーツランドSUGOで行われたミラージュ・インターナショナル・ラリーアートカップ・シリーズ第4戦にはスポット参戦し、3位に入る事が出来ました。この好調をこのまま持続したいと思いつつ、東北シリーズ第4戦へ臨みました。

9月6日、第4戦、予選。アタック1周目にトップタイムをマーク。ポールポジションを獲得しました。7日の決勝はレース前まで雨。ウェットコンディションの中、序盤は2位の選手にかなり詰められました。しかし、インターナショナルシリーズでの3位入賞が自信になりました。その後は周回毎に差を広げる事が出来、今季3度目のポール・トゥ・ウィンで終了。ポイントでも単独トップに立つことが出来ました。最終戦もこの調子で突っ走ります。



今季3度目ポール・トゥ・ウィンの高橋選手。

全日本ラリー
第6戦Bクラス

CMSC帯広 小林康弘選手 今季2勝目でチャンプへ近づく!

'97全日本ラリー選手権第6戦「ノースアタックラリー」は初夏の北海道をフィールドに7月5～6日、合計55台が参加して開催されました。コースは北海道勇払郡占冠村トマムをスタート、夕張市をゴールとする全日本ラリー最長の463km。変化に富んだダイナミックなコースが設定され、WRCの手法や運営方法を出来る限り取り入れる等、スポーツ性の高いラリーとして注目を集めて開催となりました。一方、ハイスピード、ロングSSによるコースアウトや車へのダメージも大きく、23台がリタイアするサバイバルラリーとなりました。

5日、朝8時、第1ステージのスタート。ミラージュ同士、CMSC勢同士が毎回激戦を繰り広げているBクラスですが、まずCMSC道北の鎌田豊選手がSS1でトップタイムを叩き出しリード。続いて浜松の菅野正之選手、鹿児島

の原口真選手が1秒遅れの2番手につきます。高速ステージのSS2で鎌田選手が3位に後退すると、代わって帯広の小林康弘選手が首位に立ちます。SSごとにミラージュ勢がトップタイムを奪い合う緊迫した展開となりましたが、小林選手は安定した走りで首位をキープします。午後の第2ステージになると雨が降り出し、路面状況は一転。各選手タイヤチョイスに苦慮、荒れた路面と長いSSでタイヤの使用本数も増えます。夕刻からの第3ステージではやや精彩を欠いた走りの小林選手。トップタイムの選手に追い上げられますが、首位を堅持します。

明けて6日、最終ステージ。やはり2位の選手にSS15、16とトップタイムを出されましたが、小林選手は前半のアドバンテージが効いて、見事、今季2勝目を挙げました。有効ポイントも伸ばし、シリーズチャンピオンへとまた



激戦のBクラスを制した小林選手。

一歩近づきました。

WRC第9戦 ラリーニュージーランド

勅使川原光選手

CMSC
千葉

日本人クルー1位に。

'97WRC第9戦ラリーニュージーランドが、8月2～5日、ニュージーランド北島を舞台に開催されました。ニュージーランド最大の人口を持つオークランド市に隣接するマヌカウ市をスタート/ゴールにした同ラリーに、CMSC千葉の勅使川原選手が参戦しました。南半球にあるニュージーランドの8月上旬は真冬。降雪の可能性こそ少ないものの、気温は5度前後と寒く、早朝は霜のために道路が滑りやすくなることも多い場所です。ニュージーランドならではの牧草地帯を縫って走るラリールートはオールグラベルで道幅も広く、寒さでエンジンへの負担が軽いことも

あって、スプリントラリーという性格を持っています。

今回、ランサーエボリューションⅣにより、4度目の参加でクラス3位以内を狙った勅使川原選手。しかし、クラッチトラブル、コースオフ等でタイムロス余儀なくされ、総合17位(グループN6位)での完走となりました。「成績は決して満足できるものではありませんが、お陰様で日本人クルー1位という結果で終了する事



真冬のニュージーランドで熱い走りを見せた勅使川原選手。

が出来ました」と勅使川原選手。来年もぜひチャレンジして、すばらしい走りを見せていただきたいと思います。

CMSC栃木

筑波ナイター9時間耐久レース参戦記

8月6日の練習走行にて、オーバーランさせてしまいエンジンを破損、急遽エンジンオーバーホールをしなければならぬ状況に。8月9日、当日まで満足のいく練習や調整も出来ず、最悪の事態となってしまいました。何とか予選には間に合いましたが燃料系のトラブルが発生。思うようにタイムが出ず、参加22台中18位の結果となりました。

10日、トラブル箇所を応急処置し決勝へと臨み、長

トラブル克服で長丁場を完走。

丁場のレースがスタートしました。ドライバーは内堀篤史、添田正、吉沼昭彦、川口法行。特別なトラブルも無く5時間経過。エンジンオイルを500cc補給し、順位も13位ぐらいの所に付け、他チームの動向を伺いながら作戦を変える余裕も出てきました。7時間が過ぎ、再度エンジンオイル補給。残り2時間はドライバーチェンジ以外のピットインをせず、ゴール目指しラストスパート。参加22台中20台が完走。我々は総合10位、クラス6位の結果でした。9時間という長丁場のレースで結果



を残すことが出来、良い勉強になりました。

(CMSC栃木 川口法行)

CMSC栃木

SUGOスーパーN1 500km耐久レース参戦記

8月22日より練習に入り、サスペンションの調整に重点を置き、1分39秒を切るタイムを目標としましたが、なかなかよいセッティングが出来ず、1分41秒を出す事が精一杯の状況でした。他チームの同車種と比較してもエンジンパワーよりもコーナリング性能の差がタイムに影響していることが明白であった為、スプリング、車高、アライメント等の調整を試みました。

8月23日の予選では何とか1分40秒を出すことが出来ました。3人のドライバー(内堀篤史、添田正、川口法行)とも予選の時間をサスペンションのセッティングに費やし、結果、総合33位予選通過となりました。筑波9時間

皆の努力でクラス5位入賞

耐久レースの時のままエンジンも同じだったので、予選終了後エンジンを乗せ替えし、決勝の為に、少しでもマシンをベストの状態に出来る様、チーム員一同努力を続けました。

24日、決勝スタート。順位も少しずつ上がり、第2ドライバー交代時には25位。他チームのリタイヤも増え、第3ドライバー交代時には総合20位、クラス4位にまで上がりました。しかし100周目にミッショントラブル発生。ピットクルーの努力により何とか走行可能になった為、完走を目標に、チェッカーを受けるため、ピットを再スタートしました。結果、総合27位、クラス5位入賞。トラブル発生まではトップとの周回差も5周程しか無く、もう少し上位を狙えたかもしれないと思うと悔いの残るレースでしたが、チーム員

一同、また次回のレースに向け、頑張りたいと思います。

(CMSC栃木 川口法行)



CMSC群馬 岩田恒廣 バイクスピークヒルクライム参戦記

アメリカ独立記念日の7月4日に行われたバイクスピーク75回大会に、今回2回目のチャレンジをして来ました。車はランサーエボリューションⅣ。参加クラスはバイクスピークオープン。コースはバイクス山の4,300mヒルクライムコースです。

練習走行3日間では、5,000rpm以上回転数が上がらないという燃料系統のマシントラブルを発見。思いつくところを毎日、毎日直し続けました。そして本番当日。心は全開で走りましたが車の調子が直らず、結局、同じトラブルに。帰って来ての一言は「馬が逃げちゃったよ」。悔しさの残る走り、結果は8位でした。

他にもバイクスピーク主催のイベントがあり、ブラックタイパーティーには私と息子はスーツに蝶ネクタイ、妻と娘

悔しい思いを来年への励みに。

は着物姿で出席しました。着物は多くの方に珍しがられて、英語で質問されて四苦八苦。その会場にはすごいナイスボディの女性もいて、びっくりでした。レース以外にも現地の方々とふれあったり、ゴルフをしたりと、楽しんで来ることが出来ました。

今後も仕事を頑張りと、多くの車を売り、また来年もバイクスピークに出場し、この悔しい思いをバネに、思いっきり走れたらと思っています。



岩田家、全員集合。

CMSC青森 7月26~27日

'97ツール・ド・東北

'97ツール・ド・東北をJAFラリー選手権B・C地区第5戦として開催しました。ネプタ祭りの直前という事で、地元の有志が一足早くネプタを完成させ、スタート時にはネプタ囃子で競技車を送り、ラリーに華を添えてくれました。

さて、ラリーは午後4時31分Aクラスからスタートし、まだ日の暮れない明るい時間に第1SSのターマックヒルクライム(約8km)にアタック。サービスクルーや関係する多くの仲間の応援を受け、水温計が限界に達するほどアクセルを踏み、各クルーが文字通り熱い走りを見せ、第2ステージへと進みました。第2ステージ、Bクラスで参加のCMSC群馬・船津選手は昨年ほぼ優勝を手中にしながら、最後の最後で無念のリタイヤに終わりました。その無

CMSCの仲間が健闘。

念を晴らすかのように、今年はCJ4Aミラージュでの激走に次ぎ激走で見事優勝しました。(地区戦、初優勝とのこと。本当におめでとうございます。)

Cクラスでは同じくCMSC群馬から参加の細村選手が、第1ステージ、ダントツの1位で、このままCクラス優勝かと思われましたが、後半マシントラブルの為、大きく後退し、残念ながら7位となりました。来年こそは……と期待しています。CMSC千葉の丹羽選手は関東勢最上位の4位と健闘しましたが、力はまだまだ発揮出来ると思います。同じく来年に期待します。

多くのCMSCの仲間が参加して下さり、事故も無く、無事終了出来ました。これからも地域におけるラリーの「灯」を消すことなく、頑張り続けたいと思います。

(CMSC青森 鶴ヶ谷慶市)



CMSC香川 7月12~13日

'97CMSCダイヤスターラリー

今年は大雨洪水警報の中、コース内の土砂崩れを心配しながらの開催となってしまいました。このような天候の中でしたが、去年より10台少ないものの、45台のエントリー(出走は43台)がありました。

大雨洪水警報発令!

競技開始と共に、天気予報通りの豪雨となり、翌朝まで雨は降り続けました。43台が通った後の林道の轍は、深い所では20cm以上で、普通の車が通れる道では無くなりました。今回は天候があまりにひどかったので、この林道の写真を掲載したいと思います。エントリー、オフィシャルの皆さん、本当にお疲れさまでした。(CMSC香川 白井修)



CMSC島根 8月3日

CMSC島根チャレンジカップジムカーナ

前日(前夜)は荒天に苦しみ、当日は好天の暑さに苦しむというパターンが7年も続いている、CMSC島根の日本海(山陰)シリーズジムカーナ第3戦は、岡山県の備北サーキットに82台のエントリーを集めて開催されました。カートコースで超ハイスピードのロングコースを設定したのですが、クラブ会長自らの執拗なまでのコースチェックの甲斐あって、僅かなトラブルすら絶無でした。エントラン

ハイテンションコースが大好評。

トにも「走り応えがあり過ぎるコース」「気の抜けないハイテンションなコース」と大好評だったようです。

競技の方はAIIIクラスで1~5位までをランサーEV軍団が独占。10位までの内8台がランサー勢だったのは圧巻でした。ただ、AIIクラスではミラージュ勢最上位が5位、10位までにも3台しか入らなかったのは、少し寂しい気がしました。某社タイプRが、某社タイプN1が、この夏発売されるに至り、競争力の低下は否めません。ぜひ対抗車種の追加をと、血の涙をもって(笑)お願いしたいと思います。



います。(CMSC島根 古藤浩美)

首位福島快調なペース。2位争い激戦。

'97チャレンジカップ

首位の福島は順調にポイントを重ねています。2位争いは、100ポイント程の差の中に4チームが入る激戦で、次

回のポイント次第では大きく入れ替わる可能性があります。部門別でも変動が起きていて目が離せません。

●クラブ別獲得ポイント

	1~5月	6~8月	9~11月	12月	合計
福島	820	710			1530
広島	612	386			998
青森	577	412			989
群馬	441	466			907
山形	450	445			895
大阪	512.5	220			732.5
香川	319	394			713
帯広	378	306			684
札幌	381	232			613
浜松	307	289			596
道北	421	155			576
岐阜	182	326.5			508.5
栃木	204	255			459
島根	79	195			274
愛知	34	136			170
鹿児島	0	168			168
仙台	64	90			154
埼玉	98	46			144
岩手	30	0			30
秋田	0	8			8
千葉	0	0			0

●ラリードライバー部門

小林 康弘	帯広	176
原口 真	鹿児島	113
菅野 正之	浜松	102
奴田原文雄	札幌	101
松井孝夫	愛知	98
鷹野健太郎	道北	91
鎌田 豊	道北	90
中島 律	広島	90
細村謙一	群馬	86
杉山 聡	道北	72

●ラリーナビゲーター部門

中村 洋次	帯広	109
川村 知恵	道北	106
野村佐江子	広島	90
朝岡 達也	愛知	72
生井重男	帯広	54
細村 祐子	群馬	40
野津康弘	福島	32
本島 正和	浜松	30
横山 浩	札幌	28
本田 辰彦	岐阜	27

●ダートトライアル部門

秋間 忠之	大阪	432
湯本 敬	山形	340
小川 進	福島	324
谷口 浩二	札幌	286
小出久美子	大阪	257
岩根つもる	広島	238
荒井信介	群馬	234
河内 涉	広島	223
赤羽政幸	山形	213
大泉 剛	福島	211

●ジムカーナ部門

宇野 慶一	青森	302
工藤 裕史	青森	240
佐藤 義隆	福島	182
久保田 明	青森	148
丹羽 裕一	道北	140
江上 逸人	栃木	130
三崎 朋弘	帯広	115
高野 聡	福島	92
小館 久	青森	84
下谷 光俊	栃木	57

●レース部門

添田 正	栃木	140
高橋しげる	仙台	128
内堀 篤史	栃木	74
川口 法行	栃木	44
吉沼 昭彦	栃木	12

●ポイントのつけ方

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位以下	リタイア
ポイント	40	30	24	20	16	12	10	8	6	4	2	1
	20	15	12	10	8	6	5	4	3	2	1	0.5

リタイアには予選不通過も含む

A = 全日本選手権(含む、レディースクラス)、地方選手権(除く、レディースクラス) 但し、ダートトライアルにはオールスターダートトライアル ジムカーナにはJAF CUPジムカーナ レースにはミラージュカップ、N1耐久レースを含む B = それ以外の競技会